



「今シーズンの冬は厳しい」と言われていたのは秋ごろでしたが、12月中旬現在、この予報は全くはずれています。11月以来、最高気温が0℃という日も数日はあったものの、それ以外は比較的穏やかな気候が続いています。「これがずっと続けばよいのに」というのが合言葉のようになっていましたが、そのとおりになっています。最近では、妻などは「なんだかシカゴの冬っぽくない」などと言い出す始末。そういわれてみると、確かにクリスマスの飾りつけがされた家々に雪がないのは少し寂しい感じもいたします。降雪対策として家の前にまく塩も購入して準備万端なのですが、今のところ全く出番がありません。さすがに雪が積もることなく春を迎えるということはなく、いつかは雪かき、塩まきで苦労させられるとは思うものの、いざこのような状況となるとなんと拍子抜けです。

さて、12月は「戦争」ということを改めて考えさせられる出来事が続きましたのでご紹介させていただきます。

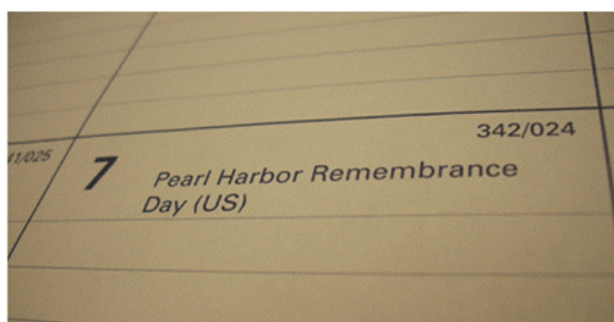
まずは12月7日です。この日が何の日かご存知でしょうか。私自身、これまで全くと言ってよいほど気に留めたことはない日だったのですが、職場からの帰路、ラジオにて知らされました。聞いていたラジオ局は、ニュースや天気、交通情報などを24時間流し続ける局なのですが、この日は約15分毎に、1分～2分程度で戦争体験者の談話や過去の歴史などを紹介し続けていましたため。このために、否が応にも気に留めざるをえませんでした。「12月7日」。この日は、日本が真珠湾を攻撃した日で、私が聞いていたのは、2011年がちょうど70年目だったために特集として流されていた番組でした。内容は、戦争の悲惨さ、無益さなどをうったえ、また退役軍人の方々へ敬意を表するものが多く、番組の意図としてはそのことを伝えなかったと推測されるものの、何せ15分おきに何度も何度も聞こえてくるので、正直、何か「刷り込み」をされているようにも感じてしまいました。もちろん、真珠湾攻撃については、歴史的事実としてきちんと認識しておく必要がある出来事ではありますが、このように何度も何度も短時間、繰り返して放送するのではなく、ある程度の時間を確保してきちんとした特集番組を流すとか、または、70年といえば短い時間ではありませぬので、歴史の教科書にその場所を譲ってもよいのではないかと感じたい次第です。

ちなみに、アメリカでは「パールハーバーデー」として記念日となっています。政府機関や学校が休みとなるような日ではないものの、全てではありませんが、そのことが記載されたカレンダーもあります。

それから、その1週間後の12月14日です。これは日本でも報道がされたように、イラク戦争から米軍が完全撤退をし、オバマ大統領が同戦争の終結を宣言した日です。公式統計によるとイラク戦争に従軍した米軍の兵士はこの8年もの間に延べ約150万人に達し、米軍の戦死者は約4500人にのぼるそうです。この完全撤退、一部には、オバマ大統領の再選に向けた政治的利用だと主張する声もありますが、いずれにしろ、戦争が終結したことは良いことに違いはありません。

先般、テレビ番組の企画で、子供たちへのサプライズのクリスマスプレゼントとして、大きな箱からイラクに派遣されていた父親が出てくるという感動的な再開の場面を演出していました。アメリカで生活して2年以上たちましたが、普段はあまり感じることはない、アメリカは戦争中ということを感じ知らされました。

写真は12月7日のカレンダーの記載です。これだけではさみしいので、オヘア空港に装飾されたクリスマスデコレーションも掲載します。



ジェトロシカゴ事務所  
産業機械部 松本 崇